

令和元年度 宮崎県立小林高等学校 【自己評価書】 《 4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する 》

教育目標 立志鍛練の精神のもと、次代を担う知・徳・体の調和のとれた人間の育成、学力の向上をめざす教育を積極的に推進し、地域の信頼、期待、ニーズに応えられる学校を構築する。						
重点目標	評価項目	計画 (PLAN)	実践 (DO)	評価 (CHECK)		改善 (ACTION)
		重点努力目標	方策・手立て	学校自己評価	学校関係者による評価	*結果の考察・改善
知育の推進	基礎・基本の定着と学力向上 (高橋誠)	①授業の改善・授業力の向上 ②個別指導の充実 ③家庭学習の充実	①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善(研究授業、校内研修) ・授業評価アンケート活用(職員研修会) ②成績上位者の指導(個人添削指導、特別講座) ・成績下位者の指導(学習相談会、指導カード) ③「私の生活学習ノート」の活用(担任による点検とコメント指導) ・二者面談や三者面談の充実、家庭との連携	3.0	2.6	・年3回研究授業週間を設け、他教科の授業も参観してもらっている。今後教科横断的な視点が重要視されるので、職員間の協働性を高めていく必要がある。 ・難関大講演会や立志クラブなどを通して、1年の早い時期から生徒に高い進路意識を持たせる。 ・定期考査での欠点を取る生徒が年々増えており、事後指導にかける労力を減らしている。授業内容をしっかり定着させる授業改善に取り組む。 ・担任、副担任による生活学習ノートの点検・指導が効果を上げていく。しかし、年々自宅学習時間が減少しており、さらに家庭との連携を密にする必要がある。
	進路指導の充実 (有村)	①基礎学力定着と学力向上 ②キャリア教育に基づいた進路指導 ③入試改革対応と進路意識の啓発	①夏季学習会(全学年)、難関大対策進路講演会 夏季特別学習会(3年)、春季講習会(2年) ・学力検討会および志望校検討会の充実 ②進路講演会(年6回)全学年：あり方生き方 3年：受験関連2回、1年：進路選択と職業講話 ・大学出前講座と校内進学ガイダンス(2年) ③AO・推薦入試への指導の充実 (小論文、口頭試問、面接討論指導) ・入試改革に伴う進路学習と保護者説明会、研修会	3.0	2.8	・入試改革による入試制度や個々の生徒の進路希望の多様化への対応、幅広い学力層への指導体制等について、職員の研修および共通理解を深めながら次年度に向けて指導法の工夫および改善が必要である。 ・難関大へ挑戦する生徒の支援体制をさらに組織化して各教科、バランスのよい指導計画で取り組む。 ・地域や地元の小中学校との連携を密にし、本校の取り組み等の情報の発信や意見交換に力を入れる必要がある。 ・OBや外部機関との連携を通して、コミュニケーションを図り、職業や進路、受験意識を高めていく必要がある。
徳育の推進	規範意識の向上と生徒指導 (富永)	①基本的な生活習慣の確立 ②社会的規範意識の高揚 ③環境美化意識の高揚	①朝の立ち番指導による「時間厳守」「挨拶」の徹底 ②各学年における「服装容儀指導」 ③交通安全教室、情報モラル教室、薬物乱用防止教室の内容検討と集会における規範意識の高揚。 ④清掃の取りかかりの呼びかけクラスや部室の整理整頓	3.0	3.1	①大半の生徒は元気のよい挨拶と時間通りの登校であったが、一部の生徒に遅刻が常態化しているため担任等と連携を図り遅刻ゼロを目指したい。 ②職員・学年の連携のもと容儀指導ができた。今後も学年団と連携をとりつつ指導していきたい。 ③各種行事計画通り行うことができた。いずれも重要であるが毎年内容がマンネリ化する恐れもあるので工夫や他の部署と連携してやっていきたい。 ④清掃の呼びかけは放送委員会によりまめに声かけができていたが、取りかかりがまだ遅いのでしっかりと声かけをしていきたい。
	道徳・人権教育の推進 (教頭)	①在り方・生き方の教育の推進 ②命を大切に教育の推進 ③人権教育の推進・意識の高揚	①在り方・生き方に関する講演会の実施 ②薬物乱用防止教室、WYSH学習の開催、エンカウンター活動の計画的な実施(保健部・人権) ③各学期の人権教育(生徒向け)と職員研修の実施	3.2	3.1	・森永顕彰会講演を含め、在り方・生き方講演会は年間2回実施して、生徒の進路意識の高揚に努めた。 ・WYSH教育並びに人権教育では、養護教諭や体育科教員、外部講師による講義(講演)を実施した。 ・コミュニケーションスキルや性、人との関わり方、命の大切さ等様々な機会を捉えて人権教育を行った。
体育の推進	心身の健康と鍛練 (教頭)	①心身の鍛練の推進 ②健康・防災教育の充実 ③教育相談室体制の充実	①保健委員会(生徒会)の活動促進、保健便り・ポスター等による情報提供、支援学校との交流会実施 ②健康講話の実施や防災関係の職員研修の実施 ③教育相談情報委員会(毎週実施)の機能充実と関係機関との連携促進	3.5	3.4	・保健委員会を中心に心身の健康や生活習慣について繰り返し呼びかけ、生徒の意識の向上につながった。また、支援学校との昼食交流会を通して心身の健康を学び、人権感覚を磨いた。 ・保健部を中心に救急救命法の訓練を生徒・職員共に実施したり、職員向けに危機管理の研修を行った。 ・早期に教育相談部や関係職員との連携を図り、組織的に対応できた。
	部活動の活性化 (富永)	①部活動の競技力向上 ②部活動加入率の向上 ③文武両道の実践	①部顧問・担任・各公務・外部指導者と連携および各部活動に対する活動支援 ②継続活動する生徒の育成と未加入者への働きかけ ③部顧問および担任・教科担任との連携強化	3.0	3.6	①ウエイト女子の日本一をはじめとする強化部の活躍はもちろん他の部活動の活躍も多かった。夏の甲子園予選は全校生徒から希望を募り一体感のある応援ができた。 ②加入率は悪くはないが、部活動によっては学年に差があり、部活動紹介などの工夫を行い加入者をさらに増やしていきたい。 ③部活動集会などを通じて学校の活性化の中心は部活動であり、文武両道を含めて学校生活の中心となるように訴えていきたい。

学校評価委員の意見や提言 (内容別にまとめたもの)

【全体】

- 学校経営ビジョンとして、地域と密着した活動を取り入れられ、実践されていることはお互いを知る上でとても良いことだと思う。ゆくゆくは大学卒業後、より多くの子どもたちに地元（せめて県内）での就職につながることを望む。（地元愛育成）
- 校訓由来である「青少年の志は純粹に高くあり、自らの清らかさと厳しさとで鍛える」精神をこれからも多くの小林高校生に培ってもらべく、学校関係者ととともにできる限り協力させていただきたい。
- 平成から令和へと年号が変わり、社会の変化が進む中で生徒たちに期待することは、しっかりとした学力・教養を身に付け、社会でたくましく生きていく力の素地を作ってほしい。きっと生徒たちはやる気にさえなれば、しっかりとやれる力を持っていると思う。そのためにはできる限り生徒に寄り添いながら指導・教育をすることであると思う。
- 大学入試改革による今後の方針が不透明な中、その対応に苦慮されていると思うが、進学等の先にある生徒の目標実現のために、引き続き学力向上と進路指導の充実に努力をお願いしたい。

【職員】

- 赴任された限られた時間の中で大変だとは思いますが、先生方には頑張っていたいただきたいと思う。応援しています。
- 公開授業で見学しましたが、主体的・対話的で深い学びについては、教諭間で温度差があるように感じた。
- 一時期、1年生の間で授業（数学）がわかり辛いという話を耳にしたが、最近は落ち着いているとのことである。希望者による朝課外や放課後の補習等、先生方のサポートによると思う。

【部活動】

- 部活動の加入率が思いのほか高い。これは素直に喜ばしいことだと思う。運動又は文化的な活動と勉強はどちらも行うことで相乗効果が生まれると思う。勉強の抜け道ではなく、気分転換や頭の切替えになるように取り組むことが大事だと思う。
- 部活動で活躍している姿を見ると頼もしく思う。しかし、部活動だけでない小林高校の魅力を今後も地域を発信してください。
- 駅伝部、バスケットボール部、ウエイトリフティング部をはじめ、日ごろの努力が実り、だんだんと成績が良くなってきており、期待できると思う。

【その他】

- 6月の学校公開、10月の中学生学習会が、中学校のPTAバレー、秋の中体連（3年は後輩の応援）と重なり参加できない生徒が多数いた。日程調整（中学校との連携）等していただけるとありがたい。
- 自宅学習時間の減少、定期考査の欠点をとる生徒の増加に関しては、小・中学生時の学習姿勢が大きく影響していると思う。高校独自の取組が必要であるが、地域全体の基礎学力向上のために、小・中学校との連携を図ってほしい。量・質ともに改善していく必要がある。
- 県内でも、高校と地域との連携、高校の地域課題に取り組む活動など報道で目にすることが多くなってきた。小林高校は、部活動以外の学校の取組について情報発信が少ないように感じる。高校の認知度向上のため、積極的な情報発信をしていただき、存在感を示していただくことを期待している。
- 進学においては、難関大学に挑戦する生徒が宮崎市内の高校にどうしても集中する傾向になるが、地元中学校の生徒が小林高校に入学しても希望する大学に合格できる指導及び体制であることを知ってもらえるようPRしてもらえたらと思う。